

去る八月二十四日、小川一乗（大谷大学学長）先生をお迎えして白道会大会公開講演会が行われました（関連記事は三頁）



人間にとって一番ひどい病気はなんでしょうか？ある人は「それは癌（がん）です」と答え、ある人は「それはエイズでしょう」と答えました。

今年の九月五日はマザーテレサさんが亡くなって、仏教的に言って七回（かい）会（かい）でした（一九九七年九月五日昇天）。彼女はこう言っています。「人間にとって一番ひどい病気は、誰からも必要とされていないと感じることです」と。

## 続・自是他非の恐ろしさ

岩崎 正衛（住職）

いやすがに恵まれない人々の中にはいり込んで、沢山の人のいのちの手助けをした人の実感から出た言葉だと思えます。筆者も五年ほど前、インドの仏（ぶつ）蹟（せき）を巡（めぐ）りました。その時カルカッタのマザーテレサさんが経営していた病院の一つを見学しました。朝、ホテルの窓からカーテンを開いて外を見ると、道路脇の商店の前に大勢（おおぜい）の大人や子どもが寝（ね）ているのです。聞けば朝商店が開くとどこか

「こりやあよう聞こえる！ ええ補聴器（ほちようき）ですのう。どこで買われましたか？」と皆さんに好評（こうぷう）のこの機械、実は補聴器ではありません。アナウンスシステムといって、マイクの音だけを大きくする機械です。ですから雑音（ざしやう）は一切ありません。長ノ木本坊・蔵本通支坊・三津田支坊、いずれの法座でもご利用になれます。一度お試しください。



### 雑音がないと大好評

へ散（ち）つていき、夕方商店が閉（と）まると、また帰（かえ）って来て路上（じやうじやう）に寝（ね）るのだそうです。中国でも路上生活者（じやうじやうせいかくしや）を見ましたが、それでも彼等（かれら）は段ボール箱（だんぱうしやう）で壁（か）を作（つく）って家（い）のようなものの中に住（す）んでい

そんな生活でもまだ元気で動ける時はよいでしょう。病気になるって動けなくなったらアウトです。だれ

# 西教寺報

第94号

仏歴2547 (2003・平成15) 年  
12月10日発行  
呉市中央7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
TEL0823 (21) 2798  
FAX0823 (21) 2795  
郵便振替番号  
01340-3-29117

## 紙 面

「続・自是他非の恐ろしさ」  
岩崎正衛（住職）〈1〉  
聞こえにくい方、お試（こ）し下さい。……（1）  
お知らせ（折出）美さん……（2）  
白道会大会……（3）  
本堂修復・調査……（4）  
夏休み子ども大会……（5）  
ご案内「報恩講仏の子の集い」……（6）  
乙井雪雄さん……（7）  
敬悼録……（7）  
第二回「弘法（くわん）宗（しゆ）カウ（ン）セ（リ）ン（グ）学（しゆ）習（しゆ）会」……（7）  
ご案内「前住職（ぜんしゆく）俊雄（しゆんしゆ）十三回（じふさんかい）会」……（8）  
「秋（あき）の涼（すず）し」……（8）  
俳句（はいきう）「秋（あき）の涼（すず）し」……（8）  
誓子（ちかこ）の日記（にじ）……（9）  
天女（てんじゆ）の絵（え）を寄（よ）付（つ）（古（ふる）江（え）さん）……（9）  
おれ・お詫（わ）びと訂正（ていせい）……（9）  
西教寺法座（さいきやうじほふざ）と例会（れいぎ）のご案内……（10）

聞こえにくい方、お試（こ）し下さい。

も声もかけてくれないで、路上で死んで行かなければならないのです。そんな時にその人は必ず思うでしょう。"私は誰からも必要とされていないのだ、誰からも相手にされていないのだ"

と。そういう人たちの中へ、マザーテレサさんのグループが声をかけていくのです。"あなたたちは決して一人ではないのですよ。私たちがいますよ、さあ一緒に病院に帰りましょう。"そうやって病院へ連れて帰り最後のいのちをみつめてあげるのです。私が病院を見学した時は、丁度昼ご飯の時で、世界中から集まった大勢のボランティアの人たちが食事の世話をしていました。

える形でまた目には見えない形で、人間は必ず私以外の人ののおかげの中に生かされているのだなあと。更に言えば生命のないものから太陽の恵み大地の恵みの

世界の中に生かされているのだということ。マザーテレサさんは、仏教でいう人間はみんな縁起の世界に生きている"という道理を身にかけて実行した人だなあと思いました。

"私は誰からも相手にされていない"と思ひこむことが間違いであるとすれば、その逆の"私は誰の世話にもなっていない"一人でもちゃんと生きている



(写真) 圓石正武さん

「と思ひこむことも間違いではないでしょうか？その間違いを犯している大將がブッシュさんではないのでしょうか？九・一一事件の直後世界中はこぞつてアメ

リカに同情し、テロをにくみました。ところがあれから二年経つた今はどうでしょう。か？とにかくブッシュさんはアメリカこそ正義であるとの旗印のもと

に、国連の意向も無視してわが道を突進しています。しかもイラク国民のアメリカに対する反発があまりにひどいので、アメリカの指揮権のもとでの、国連をはじめ世界の国々の協力を要請しています。ソ連の崩壊以後アメリカ一極構造は段々と強固となり、今では世界中がたばになつてかかつて武力ではアメリカには勝てません。

以前にも書きましたが、楠木正成が敗戦を覚悟で湊川へ出陣した時「非理法権天」の旗印をにかけて進んだそうです。非道は道理に勝てない、道理があつても法律には勝てない、法律があつても時の権力には勝てない、権力者であつても天の道理には勝てない。楠正成はこの権力者に足利尊氏をあてはめ、天道に順じた南朝方の勝利を夢見たの

ですが、私はこの権力者がブッシュさんに代表されるアメリカのネオコン（新保守主義者）アメリカ第一主義者に見えてくるのです。"イラクの秩序は半年で回復する"と豪語していたのに、肝心のイラク人の心をつかんでいないのですから、いまだに毎日のようにアメリカ兵が狙撃されて死んで行っています。ビン・ラディンさんも、フセインさんも未だに発見されません。このままでは第二のベトナム戦争になりかねない

と世界中が危惧しています。自己中心的なあさましい日暮しをしているこの私に、自分自身を客観的に見る信心の智慧の眼をいただいて、心のゆとりを持つてこそ、本当に自他ともに生きる世界が見えてくると思います。神さまを背中に負うて、ひとの非を

さばいて行く世界からは本当の平和はとてものぞめな



上山田地区世話人として活躍されていた折出笹美さんですが、病気のため世話人をやめられることになりました。またご縁がありましたらよろしくお願いします。尚、増員でしたので新世話人の紹介はありません。

小川一乗（大谷大学学長）先生をお迎えして

白道会大会

# 満堂の参詣

## ゼロに目覚めよと呼びかける本願

去る八月二十三日～二十五日まで、蔵本通支坊で恒例の白道会大会が開催され、今年は大谷大学学長の小川一乗先生にお願いしました。多忙な現役学長さんにも関わらず、快くお越しくださいました。

小川先生は、脳死を前提とした臓器移植の問題にも積極的に発言しておられ、法座では「人道」に対する「仏道」という視点から臓器移植の問題点を指摘くださいました。また、ご専門が「真宗学」ではなく「仏教学」ということから、仏教の原理、お釈迦さまの教えによって分かりやすく親鸞さまの教えを説いてくださいました。妹さんの遺された詩、

死に向かつて生きているのではない  
今をもらって生きているのだ  
今ゼロであつて当然の私  
今 生きている  
(鈴木章子)

を紹介しながら、「人生は引き算ではなく足し算（縁起ということ）、

本来はゼロ（空ということ）であることに目覚めよと呼びかけてくださっているのが阿弥陀さまです」とお話くださいました。

### 公開講演会

今年は、従来の法座形式に加え公開講演会を企画しました。「西教寺の中でコソコソやつとつてもつまるか（やつていても意味ないぞ）、もっと社会に開かれた会にせんにやあ」「若い者が参りやすい形式に」というご門徒のご意見から、全席椅子席にし、チケットを販売（お参りしやすいように五百円にしました）して、普段ご縁のない人も誘ってくださいと呼びかけました。また、他寺院にも呼びかけ、「社会に開かれた会に」ということで新聞にも紹介してもらいました。おかげで若年層や働き盛りの世代も足を運んでくださいました。さらに、遠くは関西、県内でも山県郡などからも泊りがけで聴聞に來られ、外陣は満堂、余間（阿弥陀さまをご安置している内陣の両脇の部屋）にまで人があふれました。



講演会は、「いのちは平等ー仏教の原点ー」というテーマでお話を頂戴しました。「いのち」について、科学などのいろいろな見方を紹介しながら、仏教はどうみるのか。現代社会でいのちがみえづらくなっているのは、死を抜きにして考えるからだと指摘。

また、お釈迦さまが示された生老病死の四苦のうちの「生苦」とは「生きる苦しみ」という意味ではなく「生まれる苦しみ」であり「生まれるによる差別」を意味している、お釈迦さまは、生まれによる苦しみ、つまり「輪廻」を否定し、生きとし

いけるもののいのちすべては無条件で平等であるということ。「縁起説」によって説かれた方。「縁起」とは、すべてのものは無量無数の縁によって、ただ今の瞬間をいただいているということであり、いのちはつながっている、「いのちの連帯」のことだと説明され、ご縁をいただいて生きているのではなくご縁が私となっている、お念仏を通せばみんないたるべきものと分かる、「年金を子供に預けてみなさい、見えなかつた世界が見えてくるよ」とお話下さいました。

### 御示談

御示談では活発にたくさんの質問が出されました。参詣のある女性からは、小川先生が紹介されたアイドルグループSMAPの歌で、私たちは「ナンバーワン」を目指す必要のない「オンリーワン」だということをお聞きされ、大事なことだと思つて家に帰つて娘はどう思っているかを尋ねてみた、また「ただ今のこころどう生きるかが大切」ということに気づかせてもらつて救われました、など、喜びの声も聞かれました。



# 本堂修復・調査進む

西教寺長ノ木本坊本堂の修復は、半解体とともに綿密な調査が進められています。私(編集者)は、大判小判が出てくるのを期待していましたが、出てきたお金は一文銭でした。



さて、調査の結果、現在の本堂に至るまでに

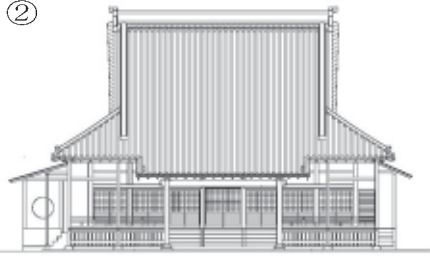
は、長い時間をかけて少しずつ、様々に整備され、改造が加えられていることが分かりました。大きなところでは、後堂(本堂の裏部分)の下屋を広げたり、本堂正面に向かつて右手の縁を取り込んで外陣を広く(きつと少しでも多くお参りができるように)したことなどが分かりました。

また、現在の屋根は入母屋造り(図②)ですが、骨

図①



図②



組みを調査したところ、建設当時は寄せ棟造り(図①)であったことが判明しました。設計士の藤田さんによると、江戸時代は幕府により、屋根の形などの建築規制もあつたようで『京都府の近世社寺建築』一〇頁参照)、出て来た棟板を見ると、一九〇七(明治四〇)年に現在の入母屋造りに改めたとあります。「此の堂旧は寄棟と為す…大修繕を加えずんば則ち風雪に耐えず…工事漸く進みて上棟の式を挙ぐ」という言葉からは、当時の門徒僧侶の歓喜の様子が伝わってくるようです。

また、外陣中柱上の彫刻背部に次のような文字(右写真)が書かれています。活字に直すと以下(写真左枠内)のようになります。



御堂六代住順正代廿六年ノ天井

此ノ大工和庄村シカタ中塩幸助也出来ス

安永五丙申三月十五日 大工和庄村■田ノ

当寺七代住務了瑞代二 中塩勘右衛門

廿六年シテ 楠木ニテ合天井を工ム

之作也

天井出来ス也

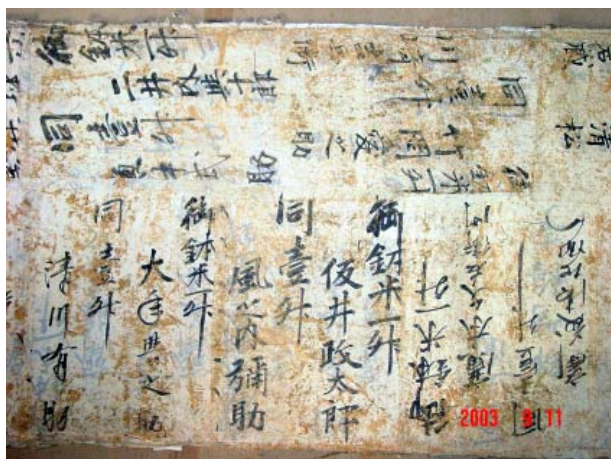
生年七十五才作也

ご覧のように、読んでみると「廿六年シテ天井」という文句が二度書かれています。この捉え方で全体が色々な意味に解釈できて、なかなか内容を特定しづらいのですが、格天井ができた一七七六年と、六代順正住職継職の年の一七三四(享保十九)年(『灰峰山縁起』参照)との二つのほぼ確かな年代をもとに考えると、恐らく「御堂」が「六代住(職)

でみると「廿六年シテ天井」という文句が二度書かれています。この捉え方で全体が色々な意味に解釈できて、なかなか内容を特定しづらいのですが、格天井ができた一七七六年と、六代順正住職継職の年の一七三四(享保十九)年(『灰峰山縁起』参照)との二つのほぼ確かな年代をもとに考えると、恐らく「御堂」が「六代住(職)

順正」の時に「大工中塩幸助」によつて建てられ、二十六年して一七七六(安永五)年七代了瑞の時に天井(格天井)を中塩勘右衛門がつくつたということではないかと思われま

す。推測通りであれば、現在の七軒四面の本堂は一七七六年から二十六年を引き算して一七五〇年に完成したことになります。



最後に、今回の調査で、私（編集者）にとって何よりも印象深かったのは、内陣両余間（七高僧・聖徳太子が安置されている部屋）の壁紙の下地に使われてあった半紙です。何かの折のご懇志（当時はお金ではなくお米だったようです）を書き留めたものだと思いますが、おびただしい数のご門徒のお名前が書いてありました。調べてみると一九〇〇年初頭（明治三十五〜四〇年ごろ）までご存命であった方々のお名前でした（写真左）。

西教寺にご縁を結ばれた方は、このお寺の歴史の分だけ、相当数いらっしゃるのだろ

## 夏休み子ども大会

うと、通り一遍のことは思ってはおりまして、筆で書かれているおびただしい数のお名前を実際に間近に見ると、仏法を喜ばれ、お寺を支えてこられた先達の熱い思いが、時代を超えて今私に伝えられているような感じがして、背筋が伸びる思いがしたことでした。

龍谷大学伝道部は、毎年夏にお寺を巡回して、人形劇やゲームなどを通して仏さまの教えを広めてくれています。今年も近隣数ヶ寺合同で伝道部さんと一緒に夏休み子ども大会を催し、六十一名の参加がありました。

今年は、何か記念になるものをもつて帰ってもらおうと、一班十人程度に分かれ、色紙を細かく切つて貼る「切り絵」をしました。

ところが各班に一本ずつしかスティックのりがなくて、子どもたちは「次はボクの番

じや」「いや私よ!」と半分ケンカ状態になりました。私は、「伝道部さんはどうしてもっとたくさんスティックのりを出さないのだろう」とイライラしていました。

なんとか切り絵が終わり、次は人形劇。

ゴリラのゴリ男が、お坊さまからもらったおまんじゅうをニヤー助にやらずに自分だけ食べてしまう話でした。劇が終わり、伝道部の長崎先生が、出てこられて話をされました。「ゴリ男はどうでしたか？自分だけおまんじゅうを食べてズルかったですね。自分のことだけ考えずに、相手のことも考えなければいけませんね。

ところで、ゴリ男もそうです。みんなはどうですか？切り絵の時、スティックのりを仲良く使えましたか？」という長崎先生の問いかけに、

「何とそうだったのか、スティックのりには、そんなに深い思い召しがあったのかと驚き感激しました。子供たちもハッとした様子でした。



色んな遊びを通して、「相手のことを考えてみんな仲良く」を学んだ一日でした。小さいときにこのことを学んでおくことの大切さを実感しました。

### 今年は夜まで

また今年は、会終了後、自由参加で夜まで「集い」をやりました。編集者（智寧）が小さい頃は泊りがけでやっていました。キャンプファイヤーなどをしてもらってとても楽しかった記憶があるので、何とか子供たちにそれに近い思い出をと思い、今年ちよつと頑張ってみました。

飯盒炊さんをして、カレーを作つて食べたのですが、カレーを作るには何がいるのか、ご飯はどうしたらたけるのか、材料は何がどのくらいいるのか、買い物からはじまって、マキ割り、米とぎ、飯盒炊さんと、自分で考えて何かをする楽しさを子供たちが学んでくれたらと

いうのがねらいでした。スイカ割りや花火などもしました。伝道部の学生さんも大活躍で、おかげで子供たちは楽しそうにしてくれていたと感じています。とりわけ周りで長時間にわたりお手伝い下さった保護者のみなさんに心から御礼申し上げます。しんどい分だけ実りのある行事ではなかつ

### ―その後―

わが家の夏休み子ども大会効果を報告します。会の翌朝、家族で食事中、牛乳が一人分しか残っていないことが判明、長男が自分だけ飲もうとして兄弟三人取り合いになりました。



絵・堀岡春三さん

たかと感じています。しかし、何せ大変だったので来年もしたいような、こわいような...

た。そこで私（編集者）が一言。「昨日は何を習ったんだっ

け？」

はつと気がついた長男が二男に牛乳を差し出し「これマー君にあげる」といいました。すると三男のマー君（学・四歳）は、子ども大会には出ていませんでしたが、お兄ちゃんのマネをしたのでしよう、牛乳を三男に差し出し「これ遊（ゆう）二歳ちゃんにあげる」というのです。

わが家では大事件でした。兄弟で取り合いのケンカこそすれ、自主的に譲り合いができたのは初めてでした。「おーっ、お前らすごいなあ！えらいぞー！お父さんうれしいぞーっ！」絶賛、ほめ倒しました。お浄土とはこんな所なんだろ

うなあと思いました。気をよくしたのでしようか、三人は朝のおつとめでお仏飯をお供えする時も、

お灯明（ろうみょう）（ローソク）を消す時も、いつも大ゲンカでしたが、親が「みんなで仲良く」と言っていると気がついて、話し合ってケンカせずにできるようになりました。

## 報恩講仏の子の集い

日時：2003年12月24日（水）10:00～15:00

会場：西教寺蔵本支坊（中央7丁目7-13）

参加費：500円

持参品：念珠・聖典・お弁当等・お茶

定員：100名

切：12月13日（土）

申込先：最寄の西教寺か世話人

TEL21-2798

FAX21-2795

Email: chinei63@enjoy.ne.jp

主催：浄土真宗本願寺派安芸南組



ながのきほんぼう  
長ノ木本坊

〒737-0053

呉市長ノ木町16-10

TEL 0823-21-3714

FAX 0823-21-2991

EMAIL: mamochan@tttec.co.jp

くらもとどおりしぼう  
蔵本通支坊

〒737-0051

呉市中央7-7-13

TEL 0823-21-2798

FAX 0823-21-2795

EMAIL: chinei63@enjoy.ne.jp

HP: http://www.tttec.co.jp/~chinei63

みつだしぼう  
三津田支坊

〒737-0821

呉市三条4-13-7

TEL 0823-21-5895

FAX 0823-21-5895



乙井雪雄さん

妻セツヨさんともどもよくお寺の世話をしてくださいました。特に板前であった経験を生かしてお寺で料理教室を開かれ、お寺のお斎の味付けもご指導下さり、たくさんの方が勉強されました。また彫刻の腕にもすぐれ本坊本堂廊下正面の「灰峰山」の山号額は乙井さんの遺作です。

第二回広島真宗カウンセリング学習会

仏教精神を根底にしたカウンセリングがあるのを存知でしょうか。去る九月三〇四日、本願寺広島別院（広島市中区）において広島真宗カウンセリング学習会が開かれました。今年、呉で行われた一回目に続き、今回で二回目になる学習会は、広島東組社会福祉部・ビハール安会（浄土真宗本願寺派）との共催という、ますます充実した形で行われました。講師は西光義敏先生（全日本カウンセリング協会理事・真宗カウンセリング学習会会長）。

現代ほど人間関係が問題になっていく時代はないと思います。それを反映してか、三日午後行われた公開講座では、老若男女を問わず幅広い層からの参加者があり、別院の大広間は満堂になり、熱気に包まれました。また、その後一泊二日で行われた体験学習には、定員（三〇名）を大きく上回

る四十六名が参加しました。「受容・共感・自己一致」などの理論を学びつつ、車座になってアクティブリスニング（積極的傾聴法）などの体験学習をしました。

次回は来年（二〇〇四）年二月頃を予定しています。

【お問い合わせ】

広島真宗カウンセリング学習会事務局  
（西教寺蔵本通支坊内）  
0823（21）2798



体験学習の様子

敬悼録

|                            |      |        |                            |       |                            |
|----------------------------|------|--------|----------------------------|-------|----------------------------|
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 阿賀南二 | 七<br>月 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 木村増男  | 七<br>月<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 長ノ木町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上原千代子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西三津町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 吉原スミ子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 斎藤利子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 本通八  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 照一    | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 焼山一  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 羽田キヨ子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 焼山一  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 高橋カズ子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 望地町  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 勝田喜子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山手一  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 川島勝子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西三津町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 松田清司  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東中央二 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上田秀雄  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西谷町  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 金本秀雄  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東中央三 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |       | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |

|                            |      |        |                            |      |                            |
|----------------------------|------|--------|----------------------------|------|----------------------------|
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 三條西  | 九<br>月 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西川富久 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 朝日町  |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 本枝子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西三津町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 勝子   | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 武重子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 板谷重子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 板谷重子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 東辰川町 |        | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 山根子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |

|                            |      |             |                            |      |                            |
|----------------------------|------|-------------|----------------------------|------|----------------------------|
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 西辰川二 | 十<br>二<br>月 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 藤川信  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 江原町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 武良子  | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |
| 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 上平町  |             | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 | 折原弘子 | 二<br>百<br>二<br>十<br>二<br>日 |

（敬称略）  
（年齢は数え年）

## 前住職 釋俊雄

## 十三回会法要のご案内

明二〇〇四（平成十六）年一月廿一日は、西教寺前住職釋俊雄（岩崎俊雄・院号会中院）の十三回会に当たります。つきましては、ご法中のご参加をいただき左記の通り一座法要を営みたく存じます。西教寺門信徒、有縁の皆さま、お誘いあわせの上お参りいただきますよう、お願いご案内します。

尚、ご存知の通り目下長ノ木本坊は本堂修復中ですので、今回の法事は蔵本通支坊本堂にて営ませていただきます。

一、とき 二〇〇四（平成十六）年

一月二十一日（水）午前九時より

一、場所 蔵本通支坊本堂

合掌

西教寺住職 岩崎 正衛

## ティータイムごばれ話



「三人よれば文殊の智慧」。蓮如さんも「なにことも談合すれば面白きことあるぞ」とおっしゃっています。長ノ木本坊で毎月の法座の昼席に行われているティータイム、十月は約四〇名の参加者でした。次世代におみりを伝えるにはどうしたらよいか、お茶を飲みながらいろんな話が聞けました。

〈同居の方〉「美味しいものを仏壇にお供えするようにすると、家族が仏さまに近づく縁が増えました。」

〈若い世代〉「若い人だってお寺参りの時間を作ろうと思えば作れる。若い人も悩んでいる、遠慮せずに声をかけて。」

〈家族の縁がなかった方〉「近所の立ち話や近所の方（近所姑というらしい）が、今日のお話はよかったわよ、内容もやさしくて誰にでも分かる話よ、あなたも行ってみたら」と事ある



いちよう冥加金三万円  
きく冥加金二万円  
お寺にご相談ください

たびにお誘いくださったのがよかった。」

〈子供と同居の方〉「まずは形がないと」「本山で制定された小型の仏壇（いちよう・きく）ならお迎えしやすい」また、「お盆に帰ってきてただ手を合わせるだけではだめ、子供の仕事が休みの時に帰らせて報恩講のご縁にあわせようと思う。ご院（住職）さん参ってくださいか？」

住職「いつでも参ります。」

また、「とにかくいろんな形でご縁を増やすことが大切」「家族が自然に手が合わるような生活を、まずは私たちが自身が身をもっていなくては」などなど、なるほどという意見がだされました。

秋涼し  
小さき仏壇  
据ゑてより

畝

加奈子





# 誓子の日記 「ガーン」の巻

今年は、私が西教寺へ来て以来、初めて雨の報恩講法座でした。

お斎の準備では、早朝から急に降り出した雨に大騒動でしたが、婦人会やその他たくさんの方々のお蔭で無事勤めることができました。毎年のことですが、皆さんの御報酬の姿には感動

です。

報恩講法座も無事済んだところで、久しぶりに家族で一泊旅行に出掛けることにしました。最近できた金子みすず博物館と下関の海響館（水族館）へ行くことにしました。

車中では、最近しりとりができるようになった二男とクダナイしりとりで盛り上がりまして行きました。

なぜか温泉好きな子ども

たちは温泉旅館に

大喜びでした。我が家では旅行中の様子をビデオに収めて、帰ってからまた皆でビデオを見て楽しむのが恒例です。また、写真好きの智寧さんはこまめに子供たちの様子を撮っていました。仙崎の金子みすず博物館

前で家族そろってパチリ。温泉旅館では、かわいらしい浴衣姿の三兄弟を。下関では、人気のスポットの関門海峡をバックに。そして海響館では、三十一メートルのシロナガスクジラの骨をバックに。たくさん思い出をいっぱいカメラに収めました。久しぶりにゆつくり過ごすことができ、子供たちも「またみんなでいこうね」と大満足の旅でした。

数日後、智寧さんは、楽しみにしていた写真を現像に出そうとカメラを取りにいきました。しばらくして部屋から、

「うへえーっ！」

と、何やら変な声。

そして、部屋から出てきた智寧さんが肩を落としてひと言。

「（カメラに）フィルム入ってなかった…。」

ガーン！さすがの私も目ま

いがしてその場に倒れそうになりました。その後、撮った場面を思い起こしながら、ふたりで落ち込んでしまいました。

「まあ、しゃあない」「ビデオがあるし、ええやん」などと、すぐに立ち直った私ですが、「遊（三男）の

## 天女の絵を寄付 -古江和子さん-



（写真左）古江和子さんと孫の護さん（写真右）。古江さんは「いつだったかご法座で『お寺には天女の絵がある』という話を聞きました。蔵本通支坊には見当らなかつたので、差し出がましいとは思いましたが」と、いたって謙虚にお話をしてくださいました。蔵本通支坊地下光浄殿にかけてあります。

## お礼

浴衣姿かわいかったのになあ」といつまでも残念がる智寧さんでした。ちゃんちゃん。

●長ノ木本坊 表庫裏の螢光燈一式と  
●寺報パナビツトやまもと  
●小塔岡之令 澤田美知江  
●松山智恵子 山崎敏子  
●河はつきん 山崎敏子  
●小長野和俊 木村綾江  
●小田原倅江 前野鈴江

新聞に載せる記事、ご意見  
ご感想をお待ちしています。

〒737-0051  
呉市中央7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
西教寺報編集局 宛  
FAX (0823) 21-2795  
Email chinei63@enjoy.ne.jp



●九三号八頁  
三津田支坊秋彼岸会  
（誤）（水）夜朝席より  
（正）（金）夜朝席より  
（金）（水）夜朝席より  
（金）（水）夜朝席より

## お詫びと訂正

※おとりこし報恩講関係の  
お礼は次号に掲載します。

●自衛隊イラク派遣の中止  
を求める署名

樋口延国 静枝  
橋塚サトウ 衛  
古崎マツ子 衛  
山崎江子  
板野鈴子  
藤川悦子  
宮本浩美  
内原世美  
平本信子  
井上力子  
中上美子  
（敬称略）

ながのきほんほう  
長ノ木本坊

法座

朝席 八時三十分～一〇時三十分  
昼席 十三時～一五時  
夜席 十九時三十分～二一時

おとりのこし 報恩講

親鸞さまのご法事を年内に  
取り越して勤めます。真宗  
の徒は必ずお参りしまし  
よう。

十一月十三日(土) 夜席より  
十六日(火) 朝席まで

講師 朝枝 思善 先生  
(山県郡豊平町浄土寺住職)

●十四日昼席 ティータイム  
●お斎：十六日朝席後  
(要チケット)

除夜の鐘

十一月廿一日(水)  
二十三日四十五分より

修正会

十一月一日(木)  
八時三十分～一〇時

一月一日(金)  
九時～一〇時三十分

※おとめ・一法話・一流盃

御正當(御正忌) 報恩講

親鸞さまのご命日法要で  
す。「おたんや」と呼ば  
れて親しまれています。  
(二〇〇四年)

十一月十三日(火) 夜席より  
十六日(金) 朝席まで

講師 白駒 先生  
(西教寺僧侶お取り次ぎ)

●十四日昼席 ティータイム  
●十五日朝席 「ご示談」  
人生や信心・仏教に  
関する質疑応答  
●十五日夜席 「御伝鈔」  
(親鸞さまの伝記読み  
物) 拝読。お雑煮(白味  
噌仕立て)のお接待もあ  
ります。

●十六日朝席後お斎

例会

お経会

毎月二十三日午前九時より  
『三帖和讃』を練習中  
です(世話人) 春菰 (2  
3)3253

●日曜礼拝  
毎週日曜日午前七時半より  
『三帖和讃』の繰り読み  
と五分間の法話

新聞切り

不定期  
(世話人) 春菰 2  
3)3253 までお尋ね  
下さい。

くらもとどりしほう  
蔵本通支坊

法座

朝席 八時三十分～一〇時三十分  
昼席 十三時～一五時  
夜席 十九時三十分～二一時

おとりのこし 報恩講

親鸞さまのご法事を年内  
に取り越して勤めます。真  
宗の徒は必ずお参りしま  
しよう。

十一月廿五日(月) 夜席より  
廿八日(木) 朝席まで

講師 桑原 浄昭 先生  
(安芸教区布教団副団長  
広中町浄円寺住職)

●お斎：二十八日朝席後  
(要チケット)

修正会

十一月一日(木) 七時～八時  
(二〇〇四年)

御正當(御正忌) 報恩講

親鸞さまのご命日法要で  
す。「おたんや」と呼ば  
れて親しまれています。  
(二〇〇四年)

一月廿六日(月) 夜席より  
廿八日(水) 昼席まで

講師 山下 義円 先生  
(世話人) 春菰 2  
3)3253 までお尋ね  
下さい。

(岡山県成羽町浄福寺住職)  
●廿七日夜席 『親鸞伝絵』  
(親鸞さまの伝記絵巻  
物)の拝読と絵解き。甘  
酒のお接待もあります。

例会

日曜礼拝

毎月第一・第四日曜日  
午前九時より一〇時まで  
『三帖和讃』の繰り読み  
と法話

土曜日曜学校

毎月第一・土曜日第三日曜日  
午前九時より一〇時まで  
(新会員) 葛西 坂口拓也

お経会

朝の部▽毎月十日 九時  
『正信偈』と『三帖和  
讃』の繰り読みの練習  
(世話人) 山崎 平本 (22)3  
1)0863

夜の部▽毎月廿日十九時半  
『正信偈』と『三帖和  
讃』の繰り読みの練習  
(世話人) 古塚 隆 (22)2  
8)731

壮年会

毎月第二・土曜日午後七時半  
(事務局) 藤本 原 (22)3  
1)7341726

みつだしほう  
三津田支坊

法座

朝席 八時三十分～一〇時三十分  
昼席 十三時～一五時  
夜席 十九時三十分～二一時

おとりのこし 報恩講

親鸞さまのご法事を年内  
に取り越して勤めます。真  
宗の徒は必ずお参りしま  
しよう。

十一月十七日(月) 夜席より  
十九日(水) 昼席まで

講師 松林 行円 先生  
(高田西組組長・高田郡吉田  
町善立寺住職)

●お斎：十九日朝席後  
(参詣者に無料でお接待)

修正会

十一月一日(木) 七時～八時  
(二〇〇四年)

御正當(御正忌) 報恩講

親鸞さまのご命日法要で  
す。「おたんや」と呼ば  
れて親しまれています。  
(二〇〇四年)

一月十四日(水) 夜席より  
十六日(金) 昼席まで

講師 竹田 嘉円 先生  
(呉市本通明円寺住職)  
●十五日夜席 『親鸞伝絵』  
(親鸞さまの伝記絵巻物)  
の拝読と絵解き。お善哉  
のお接待もあります。

例会

お経会

毎月十日 午後七時より  
毎月廿日 午後七時より  
初心者向けにやっています

ご命日最勝講法座

日時 毎月十六日  
八時半～十一時スギ  
場所 長ノ木本坊



親鸞さま

お斎(十一時スギ)

仏教徒のお食事のこと  
です。希望者は、当日8時  
まで、希望のお寺(21)3  
7)14に、最寄りの講中ま  
でお申し込み下さい。(精  
進料理・三〇〇円)

椅子席です。蔵本通・三  
津田支坊地区の方もち  
ぞご参詣下さい。